

こむぎ通信

令和8年1号

2月中旬以降気温が高いため、越冬後の生育が進んでいます。
幼穂形成期頃までに、窒素成分2kg/10aを目安に追肥を行ってください。
温暖な天候が続けば、幼穂形成期は3月下旬頃となる見込みです。

1 気象状況（令和7年10月～）

十和田市アメダス

は種～11月中旬まで平均気温が平年より低く、雨が多かったことから地温も低く推移したと考えられる。2月に入ると、平均気温が平年より高く経過し、2月15日頃には小麦ほ場の雪がほとんど消えた。消雪後、土壌の凍結・融解が繰り返され、小麦の根が地表に露出し根が乾燥や霜害を受けたほ場が見つられる。

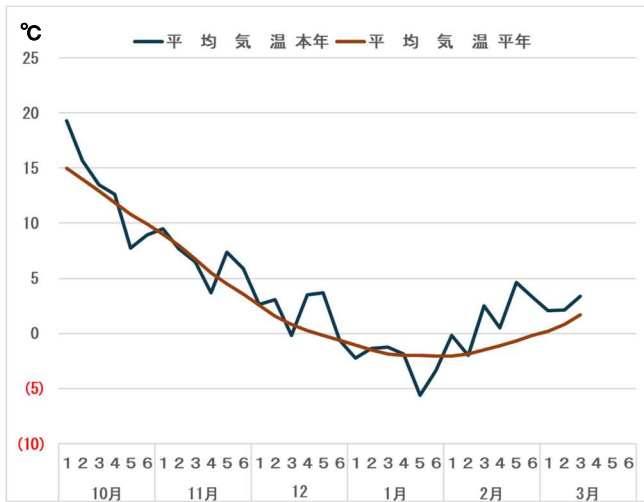


図-1 平均気温

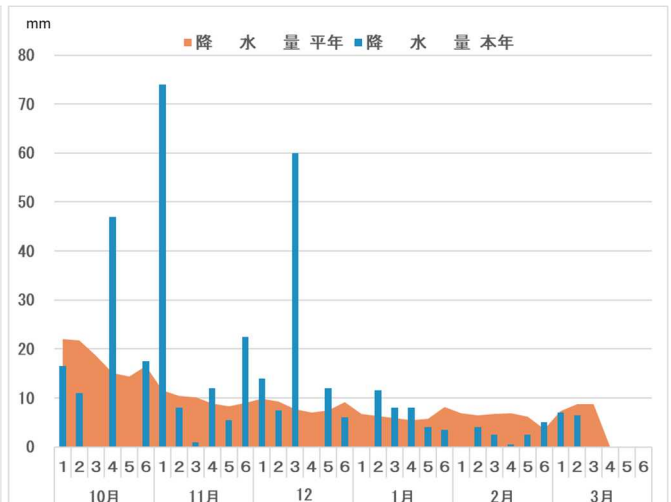


図-2 降水量

2 県生育観測ほ（十和田市相坂）における越冬前の生育状況

表-1 生育調査結果（11月25日）

品 種 名	調 査 項 目	本年	平年	前年
ネバリゴシ	は種期（月日）	10/5	9/29	10/6
	は種量（kg/10a）	8.0	8.6	8.0
	草 丈（cm）	12.8	18.2	18.2
	葉 数（葉）	3.1	5.4	5.3
	茎 数（本/m ² ）	520	1,045	1,005
	幼穂形成期（月日）	—	4/1	4/9

- ・は種は平年より7日遅い。
 - ・草丈、葉数及び茎数は平年を下回っている。
 - ・病害虫の発生は見られない。
- ※草丈、葉数及び茎数の平年値（H23～R6）は11月20日の値。

3 今後の作業

- （1）越冬後の生育を促進し茎数を確保するため、ほ場に入れる状態になったら幼穂形成期頃までに追肥を行う。
- （2）特に、は種が10月中旬以降になったほ場は、越冬後の草丈、葉数、m²当たり茎数が少ないと思われるので、追肥により生育量を確保する。
- （3）追肥量は10a当たり窒素成分で2kgを基準とするが、ほ場の地力や茎葉の繁茂状況等を考慮して加減する。